

## 平成21年度鹿児島市立病院初期臨床研修プログラム修了者（6期生） 「2年間の初期臨床研修を振り返って」

### 比嘉 那優大（鹿児島大学医学部出身）

私は平成21年4月から医師としてのスタートを鹿児島市立病院で切りました。鹿児島市立病院は病床数687床、20の診療科を携え、鹿児島県内唯一の高度救命センターを有しております。私が初期臨床研修の場として鹿児島市立病院を選んだ理由は、医師としてのスタートを忙しく、症例の多い病院で研修したいという思いが強かったからです。一つの症例をじっくり検討し深く掘り下げていくのも大切だと思いますが、多くの症例を経験し、ハードな研修生活を送ったほうが後々役に立つと思います。鹿児島市立病院では月に3～4回救急当直があり、一年目研修医と二年目研修医、トリアージ医の3人で救急搬送された患者さんの初期対応にあたり、専門の科へ振り分けていきます。ウォークインの患者さんは、最初に二年目研修医が診察を行い、必要な検査を行ってからトリアージ医にコンサルトします。また診療科によっては救急当直とは別に科当直があります。当直では、多くの多彩な症例を経験することができ非常に勉強になりました。

私は、脳神経外科医を志しており9ヶ月間脳神経外科で研修をしました。脳卒中センターを有しているため、脳血管障害の患者さんがほぼ毎日救急搬送されてきます。ある時、先輩医師が「先生が思うとおりに全部やっごらん。もし間違っことをしそうになったら指摘するから」と言ってくださり、数多くの脳血管障害の診察、初期治療を経験することができました。上級医に言われるがまま、ただ言われたことをするのではなく、実際に自分で考えて初期対応、初期治療を行い非常に勉強になりました。私も、後輩にただ教えるだけではなく、見守り、失敗したときにカバーしてあげられるようになりたいと強く思います。そのためにも多くの経験を積み、勉強することが大切だと強く感じております。

脳外科研修中に多くの患者さんとの出会いがあり、別れがありました。重症の患者さんが多く、助けることが出来なかった命もたくさんありました。しかし、治療の甲斐あって元気に退院される姿をみるのはこの上ない幸せです。くも膜下出血で搬送され、夜中に緊急手術を行い約1ヶ月の入院を終えて元気に退院された患者さんから「病気になったのは不幸でしたが、先生に出会えて良かった。先生からもう一度もらったこの命を大切にしたいです。」と退院際に言われたときには嬉しくて泣いてしまいそうでしたがその場ではこらえて、人目のないところで嬉し泣きをしたこともあります。医師であることに幸せを感じ、感謝の気持ちを持ちつつ日々格闘の毎日です。これまで出会ってきた患者さんとこれから出会うであろう患者さんの期待を裏切らないように、全力で医師人生を駆け抜けていきたいと思います。

さて、研修生活も終わりを告げました。今までは研修医という立場上、守られていましたが4月からは今まで以上に責任がのしかかってくると思います。患者さんの健康を守るため、また自分自身を守るためにも今まで以上に研鑽を積み、勉強しなければならないと

強く感じております。私は、鹿児島市立病院で研修できたことを幸せに思います。またいつか医師としても人間としても成長して鹿児島市立病院へ戻ってきたいと強く思います。

### 中川路 愛弓（宮崎大学医学部出身）

2年前、鹿児島に帰ってきたいという思いで、鹿児島市立病院を研修先として選びました。

そして、研修を終える今、自分の選択は正しかったと思います。時にはうまくいかず、自分の無力さに悩み、焦ってしまうこともありましたが、各科ローテーションと、救命救急センター当直で経験したことや出会いの一つ一つが医師として、人間として、自分を成長させてくれました。何の目標もなかった自分でしたが、色々な経験を重ねていくうちに自分の進みたい道も見えてきました。

鹿児島市立病院で医師としてのスタートをきることができ、本当によかったと思っています。2年間ありがとうございました。

### 吉永 遥（鹿児島大学医学部出身）

とても楽しい2年間でした。

吉原先生、下野先生のもとで救命科を研修し、色々な症例を経験できました。

先生方にたくさん指導して頂き、本当に幸せな研修生活を送ることができました。

この2年間学んできたことを生かし、今後も頑張りたいです。

### 竹下 綾子（佐賀大学医学部出身）

「鹿児島にお返しがしたい」一県外の大学に通っていた私は大学入学までを過ごした鹿児島の地に医師として少しでもお返しができたらと、鹿児島で研修することを決めました。

そして見学の際に目の当たりにした先生方のバイタリティあふれる姿に惹かれて、市立病院で研修することを決めたのです。

2年前「いよいよデビューだね」と今思えば数々の細やかなフォローをしてくださった先生方の笑顔に励まされながら、同期と採血の練習をし合ったのを思い出します。2年間様々な出会いがありました。医師としても人間としても尊敬できる指導医の先生や、励まし合った同期の仲間はかけがえのないものです。また、大変な思いで手術を決心してくださった患者さん、ご自宅の庭の写真をいつもうれしそうに見せてくださった患者さん、注射にもめげず兄弟の運動会の見学に行こうと頑張る小さな患者さん・・・多くの患者さんと出会い、それぞれの背景を知る度に、自分はその人生に答えなくてはならないと身の引き締まる思いがしたものです。

ICUの窓から患者さんのモニター越しに見える桜島は、それが鹿児島の象徴だからか、い

つも鹿児島のために頑張るなさい、と言われていた気がして、心の拠り所でもありました。2年間の研修期間を終え、そんな風景からも卒業です。多くの方々の暖かさに支えられ、こんなにも充実した日々を送ることができました。市立病院で研修させていただいて本当によかったと、心から言うことができます。医師としての一步を踏み出したこの病院での日々はきっとかけがえのないものとして思い出されるはずです。

2年間研修を支えてくださった皆さま、本当にありがとうございました。

### 貴島 孝（鹿児島大学医学部出身）

人が目の前で心肺停止になったときに対応できる医師になろうという思いをもち、2年前鹿児島市立病院で研修を始めました。最初はルートもとれず、分からないことだらけのなか、優れた指導医、優しく親切なコメディカルの方々に支えられ研修をすることができました。

一番思い出に残っているのは毎月ある救急センターの当直です。センターの当直では他科の先生方と接する機会が多く、所属科以外の勉強となります。初診の患者を自分で診察し検査を組み、診断まですることで自己の診断能力を研鑽することができました。

当院では定期的に研修医発表会を開催しており、盛んな質疑応答の中で学会発表の雰囲気を経験することができます。登院は研修システムが始まって8年目と若い病院であり、研修医と指導医たちと共に、よりよい研修システムを構築していこうという気概にあふれています。多くの医学生が見学に来て、当院の良さを知ってほしいと思います。

2年間を終える感想としては、素晴らしい初期研修を終えることができたという思いと、大好きな病院を離れる寂しさでいっぱいです。市立病院で学んだことを今後の医師としての礎として頑張っていこうと思います。2年間ありがとうございました。

### 前野 彩香（九州大学医学部出身）

研修が始まって早2年が経とうとしています。思い返せば長いようであっという間でした。2年前の4月に期待よりも不安が大きい中で研修がスタートし、最初は何も出来ずに落ち込む毎日でした。少しずつ日々の業務に慣れるに従って楽しくなり、今は大変充実しています。鹿児島市立病院で特に印象に残ったのは救命救急センターでの研修でした。毎日突然の事故や病気に見舞われた人が運ばれてきて、色々な患者さんやその家族の人生の一場面に関わっていることを強く実感しました。とても大変ですがその分やりがいを感じる事が出来ました。多くの尊敬できる先生方や、優しい医療スタッフの方々に恵まれ市立病院で研修できてよかったなと思っています。また、いつでも相談できる先輩、後輩、同期のおかげでとても楽しく過ごすことができました。振り返れば本当に出会いに恵まれた研修生活だったと思います。今後も学ぶ姿勢を忘れずに頑張っていこうと思います。

### 松元 愛（鹿児島大学医学部出身）

2年間の研修を振り返ってみると、短いようで長かった2年間でした。

最初は医師として社会人とし、右も左もわからず Start し、とても不安でしたが、素晴らしい指導医・たのもし同期にめぐまれ、充実した研修生活を送ることができました。

県内唯一の救命センターでの当直は、一番自分にとって勉強になったと思います。様々な症例を学ぶことができたと思います。

今後は、みんな別々の道をいきますが、ここで学び経験したことを忘れず、医師としての道を進んでいきたいと思っています。

### 水流 尚志（鹿児島大学医学部出身）

私はこの病院で医師としての第一歩を踏み出しました。他所の病院のことは分かりませんが、この病院で研修できたことは本当に良かったと思っています。

お世話になった先生方、看護師、検査技師、薬剤師、栄養士の皆様、コントロール室、清掃、食堂、売店のおばちゃん、ありがとうございました。

### 中川 映理子（鹿児島大学医学部出身）

2年間の臨床研修を振り返ってみると、とても充実した日々を過ごせたように思います。

何も知らない、何もできない状態だった私に熱心に指導して下さった指導医の先生方やコメディカルスタッフの方々、また一緒に考えたり悩んだりしてくれた研修医の先輩方や同期のおかげで、無事研修医を終えることができました。

たくさんの患者さんとの出会いと別れも私の糧となりました。

特に救命救急センターには様々な患者さんが来られます。

この2年間でいろいろな経験をすることができ、成長させてもらいました。

2年間ありがとうございました。

### 天辰 仁彦（近畿大学医学部出身）

鹿児島で研修をするときに一番に考えたのは救急が見れること、最初の二年間で幅広い疾患の初期対応を学べる病院を選ぼうということでした。結果として鹿児島市立病院を選んだことは、自分にとってベストの選択であったと思っています。医師として知識を身につけ、技術を研鑽することは第一ですが、なによりも大切なことは患者さんとの向き合い方であると、先生方の背中をみて感じたこともありました。また救急外来で病状説明をしている先生の話をお聴くことがなによりも勉強になりました。

この2年間の研修医生活で他大学より帰ってきた自分でも受け入れてくれたかけがえない友人たちと尊敬できる上司、信頼できる同僚ができました。これからの人生で必ずやこの経験と人とのつながりが生きてくると感じています。市立病院はいい病院です。あなたもこの病院で医師としての第一歩をふみだしてみませんか。

### 中川 俊輔（熊本大学医学部出身）

私は熊本大学を卒業後、地元である鹿児島での初期臨床研修を考え、救急救命センターやNICUで有名な鹿児島市立病院を選びました。外科、救急、内科、循環器科、小児科、新生児科、産婦人科、小児外科、皮膚科をローテーションしましたが、どの科でも共通しているのは部長を始めスタッフの先生方の指導は優しく丁寧であるということで、研修医に対する教育の意識も高いように感じました。市立病院の特徴としては3次救急、高度医療ができるという事で県内からあらゆる症例が集まってくるので、手技も含めて多くの経験ができるという事で、CVカテーテルの挿入やAラインの確保など、他の病院とは経験数が違うので大変役に立ちました。また、救急センターの当直もあるので、多様な救急疾患をまず研修医が病歴聴取や身体所見をとり、評価して上級医へコンサルトできることも貴重な経験になりました。また、研修医の力が必要とされる部分も多くあるので、いかに仕事を効率的に行うかを考える癖も身に付きましたし、急変などに対してもある程度のことには慌てず対処できるようになりました。肝を冷やすようなこともありましたが、上級医のバックアップがしっかりしていたので安心できましたし、いい経験となりました。

大学病院などでじっくりと過ごす事も大事な時期があると思いますが、初期研修の2年間のこの病院で忙しく過ごせた事は今後必ず役立つと思っています。

私は来年度から鹿児島大学の小児科で新たな1歩を踏み出す事になりますが、市立病院で得た事を忘れずに頑張っていこうと思います。

### 山下 容雅（鹿児島大学医学部出身）

振り返ると、あっという間の2年間でした。

のほほんとした学生から、いきなり医療の現場に飛びこんだ2年前は不安でいっぱい、傍からみてもさぞ頼りなかったことだろうと思います。

今でも未熟なことには変わりありませんが、同期をはじめ、指導医の先生方、スタッフの皆さんに支えられ、医師としての基礎をつくることができました。

研修では、救急疾患から慢性疾患まで様々な疾患を経験することが出来ました。

各科の研修を終えた後でも、救急当直でそれぞれの診療科の先生に度々お世話になり、教えを乞うことが出来るのが非常に良い勉強になりました。そして、それこそがこの病院の研修の強みだな、と感じています。

ここで学んだことを活かせるように、これからも頑張っていきたいと思います。  
2年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。